



鈴木其一「群鶴図屏風」より構成

## かわさき市民アカデミー、30年の重み

かわさき市民アカデミー学長 馬場康雄


かわさき市民アカデミー（以下、市民アカデミーと略）は今年で開学30周年になります。私個人にとっても、市民アカデミー事業に本格的に参加し始めてからちょうど10年です。

毎年のルーティンワークに加えて、次から次へと湧きあがる難題・課題に対処していると、10年はあっという間です。NPOの各種役員や講座の世話人を務めておられる方々も、同じような感慨をお持ちであろうと推察します。

でも、ちょっと考えてみてください。30年前に皆さんはどんな仕事をしておられましたか？あるいは、どのような日々を送っておられましたか？30年といえば、オギャーと生まれた子どもが成長し、学校を終え、世に出て、配偶者を得て、そのまた子どもが生まれてもおかしくない期間です。市民アカデミーはそれだけの歳月を経てきたのです。その間にやり取りされた知識と問題意識と情熱の総量はどれ程か、考えるとしばし肅然とします。

この30年は、日本が急速に少子高齢化した期間でもありました。「生涯学習」は、既成の高等教育機関（大学など）や行政機関、文化産業の片隅の分野ではなくなり、いまや最も重要な活動の一つです。裏返せば、市民アカデミーの活動は、財力・人員力・宣伝力を持つ多種多様な機関が提供する類似の事業と競合しています。関与者のボランティア・スピリットに頼らざるを得ないのは、市民アカデミーの弱点ではありますが、競合相手にはない強みでもあります。30年の歴史はそれを証拠立てていると思います。



 祝おう、集おう、30周年！ 



かわさき市民アカデミーは、2023年度後期開講をもって1993年10月開学以来30周年を迎えました。開学30周年にあたり、すでにご案内の通り、記念論文公募・記念誌発行準備を進めております。

さらに、12月9日・10日両日に記念行事「開学30周年を祝う」を盛大かつ質実に開催します。また、12月10日夕刻16時より記念パーティーも計画しています。これらについては都度プログラム・チラシ・ホームページなどでご案内を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

（30周年記念事業実行委員会）

開学  
30周年を  
祝う

▷12月9日（土） 401会議室

第1部 記念式典、特別鼎談

9:30～11:30



・記念式典

・川崎市長と語る特別鼎談 「学び続けることの意味（仮）」

福田 紀彦 川崎市長

太田 猛彦 NPO法人かわさき市民アカデミー理事長

藤嶋 昭 NPO法人かわさき市民アカデミー顧問理事



開学  
30周年を  
祝う

第2部 記念シンポジウム 「新しい時代の市民大学」 13:00～16:00  
 ・基調講演 坂口 緑 明治学院大学社会学部教授、前日本生涯教育学会会長

パネルディス  
カッション

コーディネーター

田中 雅文

日本女子大学名誉教授、川崎市教育委員会教育委員

パネリスト

坂口 緑 明治学院大学教授

澤野 由紀子 聖心女子大学教授

大澤 悠季 NPO 法人シブヤ大学学長

馬場 康雄 かわさき市民アカデミー学長



かわさき市民アカデミー アカデミーかわら版 開学 30 周年

「みんなの力でつなげよう 次の世代へ

～市民による 市民のための 市民大学」(1)

開学より 30 年が経ちました。開学当初のことを知る人は少なくなっていますが当初の精神を受け継ぎながらも変化しながら 30 年間続いてきました。

2007 年に NPO 法人の運営となってから試行錯誤しながらも順調な経営を行ってきましたが、2020 年からのコロナ禍により財政的大打撃を受け、今現在、存続の危機に直面しています。2020 年度前期全講座の中止による収入減、再開後の受講生 20%減、オンライン講座導入に伴う機器、人材への費用投入等に対して、受講生の皆様、企業からの寄附金、川崎市からの助成金をいただき、受講料値上げ、経費削減などの施策をしましたが、財政は逼迫し、繰越金の切り崩しを 2 年連続で行いました。今年度も諸物価高騰等により赤字が予想され、1、2 年以内に繰越金が底をつくほどの危機が迫っています。

2023 年

5,500 名



ところで、「かわさき市民アカデミー」では各講座に世話人がいてボランティアで運営を担ってくださっています。座学の講座では講師の紹介をしたり、堅い空気を和らげるべく一言があったり、野外講座のある講座では当日スケジュールを説明してくれたりします。

実はこの世話人制度は、NPO の運営になったころにできた制度で、世話人さんはかわさき市民アカデミーにとっての「懐刀」なのです。陰に日向に重要な仕事をしてくださっています。世話人さんなしで「かわさき市民アカデミー」は 1 日も立ち行かないでしょう。

コーディネーターや担当の先生に次期の講座の希望を伝えたり、講師との事前連絡、講座配付資料の印刷帳合、受け付け、オンライン講座の準備、入退室等の見守り、講座終了後資料の整理、野外講座のある講座ではそれに加えて、下見、団体行動に関する安全管理などしていただいています。講座の企画、運営全般にボランティアに関わってくださっているのです。そのお陰で現在の受講料が実現しているとも言えます。

ちょっと大変そうな世話人ですが、楽しくやりがいがあるのも世話人です。講座に関してだけでなく番外編の活動も沢山あるようです。

川崎市で 30 年続く市民大学を次の世代につなぐため、

202X 年

X,000 名!



「市民による 市民のための 市民大学」の継続、発展ために運営への積極的なご参加、ご協力をお願いします。下記のようなボランティアも募集しています。

- ・講座の企画、運営に参加できる方
- ・パソコンのハード、ソフトの知識をお持ちの方
- ・写真を撮るのが好きな方
- ・法務、財務などの専門知識をお持ちの方
- ・絵やイラスト、デザイン関係のことが好きな方
- ・おしゃべりしながら、手を動かす仕事の好きな方

みんなで楽しく活動したい方、お待ちしております



## ▶フェスタその他の行事

## 開学 30 周年を祝う

プラザの玄関ではバルーンアートのゲートがお出迎えします。館内では、様々な30周年記念展示を企画しています。

12月9日は、お昼の時間帯に1階で「フラダンス」発表会、パンの販売を行います。政治・社会WSや環境とみどり講座・WSの展示もご覧いただけます。シンポジウム終了後には、先生方を囲んだ「茶話会」も予定しています。

12月10日は、恒例の古本市や野菜販売、様々な体験教室を行います。定番の政治・社会WSや環境とみどり講座・WSの催しもご期待ください。

## 2023 年度前期運営代表世話人会議開催

8月2日午後にオンライン併用で開催され、代表世話人、役員・参与、事務局計36名と、太田理事長、馬場学長が参加されました。NPOの報告では中澤副理事長から、第4次中期経営計画について「財政基盤の立て直しを第一に受講生数を回復させ、計画2年目の「黒字化」を目標にしているが、諸物価の高騰で印刷費などは自助努力で回避できず、受講生に応分のご負担をお願いすることも考えている」との説明がありました。4次中計の全体説明の後、総務部会から経営概況(22年度480万円赤字、23年度予算で540万円ほどの赤字)と財政健全化(レスペーパー化、理事活動費辞退、物価高騰による負担要請)について、事業推進部会は魅力ある講座の実現(講座回数の多様化、オンライン通信環境テスト、会員制度の見直し)、各講座・WS採算状況の確認と改善・休止の相談、運営世話人不足への対応、受講生アンケート等の進捗を、広報・地域連携部会は、広報力の強化(重点地区見直し、ツイッター導入、地域のイベント参加、講座案内は読みやすさを考慮し新規性を打ち出す)、また新聞折り込み、個別チラシの検討を報告しました。第Ⅱ部グループ討論では、①広報の方法、②制度・仕組み、③値上げ、④1回受講などが話題になり、「プラザと新百合で講座開始時間が異なるが統一してほしい」との意見もありました。



## 2023 前期遠隔地受講者アンケート結果

神奈川県・東京都以外にお住まいで、23前期に講座・WSを受講した19名にアンケートを送信、9件の回答がありました。北は青森県、西は兵庫県。(1)アカデミーを知ったのは、友人・知人5名、新聞折込1名、アカデミーHP1名、講師から1名。(2)受講を決めたのは、講座のテーマ8名、講師4名、日本史に関心1名、友人が受講1名。(3)首都圏以外のより多くの方にアカデミーの講座を受講していただくために、どのようなことが必要か。①オンライン講義を増やす、オンライン受講料減額、オンライン参加での利便性を高める工夫。②SNS、YouTube、ネットを使った広報。③主要自治体の市報等に記事、地方でも一度パンフレットを新聞折込。④双方にメリットがある紹介システム。⑤魅力ある講座のテーマ、⑥アカデミーの良さ(講師陣、受講料など)をアピール。⑦聴講生の様に単発の受け方。⑧全国紙(新聞)への案内広告。(4)今後、講座・WSや特別講座で受講してみたいテーマは、紫式部が活躍していた頃の女性の暮らし、オンライン併用で美術・音楽講座、生まれ育った川崎の歴史(環境、交通、街道その他)。田中一村、江戸後期の京都や大坂の浮世絵、京都の歴史と日本美術、洛中洛外図の中の祇園祭などでした。

## 講座の単回受講のおすすめ

この後期、通常12回の講座の一部を単回受講できる制度を試行します。「いつも気になっているけど、受講申込みまではしたことがない。1回でも受講出来ればいいのに」と思っている方は多いのではないのでしょうか。そんな方に是非お勧めください。この秋、その1回の受講を21講座で体験出来ます。受講料は、1回2,000円(税込み、当日現金払い)です。申込期間は、10月10日(火)から10月30日(月)まで。先着順で受け付けます。詳しい申込み方法、注意事項は、ホームページまたはプラザ内で配布中の二つ折りチラシをご覧ください。この機会にぜひ、気になる講座、お友達の講座を体験してみませんか。新たな学びのきっかけになるかも知れません。

**訃報:竹内整一副学長 ご逝去**

人間学と映像メディアのコーディネーターを務めておられた竹内整一先生は、9月30日にお亡くなりになりました。

先生は2011年からカリキュラム企画・編成委員を、2017年からは副学長を兼任されておられました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

**加藤謙吉副学長 ご退任**

日本史およびエクセレントのコーディネーターを務めておられた加藤謙吉先生は、病気療養のため8月をもって退任されることになりました。先生は2021年からカリキュラム企画・編成委員を、22年からは副学長を兼任されておられました。

**「なかはらっぱ祭り」に参加**

●7月16日に中原市民館で開かれたなかはらっぱ祭りに参加しました。

たくさんのお子様も来場し、楽しんでいました。

**SDGs講演会『気候変動と格差：アジア各地の現場から』****(9月9日)**

東京大学東洋文化研究所 新世代アジア研究部門 教授

**佐藤 仁 先生**

はじめに、長年アジア各地でフィールドワークを続けてきた佐藤先生はSDGsに対する問題意識を提示されました。

- ① そもそも解決を必要とする問題はどうか作られたのか。
- ② 途上国では大多数がSDGsという言葉を知らない。(実はアメリカも)
- ③ 全ての人に等しく恩恵をもたらす政策はない。
- ④ 一つの価値を「所与」することの気持ち悪さ。

その上で、学校もないラオス奥地の村で「地球環境教育」をする矛盾や、タイの「コミュニティ林」は荒野林の移譲であり、生産性の高い土地の移譲ではない実態など、いわゆる「自然保護」のオブラートが行われている。では、どうするか。

先生は、個人の自立と中間集団の充実こそが最も有効な解決策であると。そして、個人が一元的な国家の枠組みに囚われないよう「言葉を受け取る力」の重要性も強調されました。

なお、中間集団とは個人と国家間に横たわる自発的な結社であり、国家からの自由が保障される個人は、集団を作って生きるものであること、さらには複数の中間集団に帰属することが大切であるとも話され、約130名の参加者に強い衝撃と共感を与えたことが80名にも及ぶアンケートから伝わってきました。(この講演会は10月下旬にホームページ(YouTube)で公開予定)

**編集後記**

今年は90日あまりも真夏日が続いてうんざりする毎日でしたが、ようやく秋の風がただよい始めました。コロナもおさまりつつありやっと日常が戻って来ましたね。

このホッとした気持ちを12月の30周年記念フェスタで爆発させましょう!

大人から子供まで満喫できる催しもたくさん用意されているようです。

みんなで、楽しむぞ!

T,T

**認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー**

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590 FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

[info@npoacademy.jp/](mailto:info@npoacademy.jp/)

<http://npoacademy.jp/>

HPは  
こちら

